



令和三年度表彰者

ふくい地域創生アワード

実績・業績集



「ふくい地域創生士®」の認定・「ふくい地域創生アワード」表彰制度の目的

福井県内すべての4年制大学が、福井県および産業界・医療界等と一体となって、地域の持続的な発展とイノベーションを推進する担い手を育てようとするふくい地域創生士®の認定制度が、ふくいCOC+事業（※1）を契機に始まり今年度で5年目を迎えました。昨年度からは、COC+事業の終了に伴い福井県の協力のもと、県内すべての高等教育機関が参加した協議体FAAふくいアカデミックアライアンスが認定・表彰を担っています。この認定・表彰制度は、“ふくい”というフィールドで地域に興味を持ち、理解を深めるための地域志向科目を学び、様々な課題に対し、フィールドワークやインターンシップ等を通して、「地域に貢献できる人材」と認定された学生を「ふくい地域創生士®」として認定し、さらにはその中から「顕著な業績を残し、地域の持続的発展に寄与できる人材」として推薦されると、「ふくい地域創生アワード」（※2）として表彰されるというものです。そうした取組を通じて地域を知り、地域に触れて、地元定着率の向上を図ることが目的です。

※1・・・「地（知）の拠点大学に地方創生推進事業（COC+）」（平成27年度～令和元年度）は、文部科学省による補助事業で、このうちふくいCOC+事業は福井大学を責任校に県内すべての4年制大学が参加し、福井県ならびに地域の産業界等と連携し、各大学の強みを活かしながら、その地域の課題解決に向け中心的役割を担える人材を養成した事業。

※2・・・「ふくい地域創生アワード」として推薦される際、各自が取り組んだ、地域の課題解決に繋がる実践活動や連携活動の実績、地域の持続的発展や地域産業の振興に繋がる研究成果などの顕著な業績を申請書に300字程度で記載する。



令和三年度「ふくい地域創生アワード」表彰者について

令和三年度の「ふくい地域創生アワード」表彰者は5名（福井大学2名、福井県立大学3名）です。本来は「ふくい地域創生士®認定証授与式並びにふくい地域創生アワード表彰式」において、その業績を発表することになっていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となったため、その発表に変わる場として本稿にまとめ発信することとなりました。

学生たちのいきいきとした息づかいが伝わってくるような研究成果の数々。その先輩たちの姿に憧れて、ふくい地域創生アワードを目指す学生も出てきています。本取組が広く地域に知られ、ふくいの新たなスタンダードとして地域がこれを支えてくれるようなものになっていってくれたらと関係者一同願っています。

【お断り】

本稿掲載のふくい地域創生アワード表彰者によるスライドおよびスライド内記載のデータ等々に関しましては、無断転用・引用等を禁止とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

【所属・氏名】 福井大学 国際地域学部 国際地域学科 田地 胡葉

【実績・業績】 福井国体競泳競技における大会運営と私の研究テーマについて

【実績・業績内容】

ICTを活用した 入院児童生徒への学習支援の可能性 —福井県内の教育現場を事例に—

国際地域 4 年 田地胡葉

病気のある子どもにも教育支援を

近年、**病気療養児**への**教育**が注目され始めている。

※病気療養児

疾病による療養のため又は障害のため、相当の期間学校を欠席すると認められる児童生徒（文部科学省の定義を採用）

文部科学省、「小・中学校等における病気療養児に対する同時双方向型授業配信を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について(通知)」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1410027.htm, (2021/07/13)

病気療養児の抱える問題

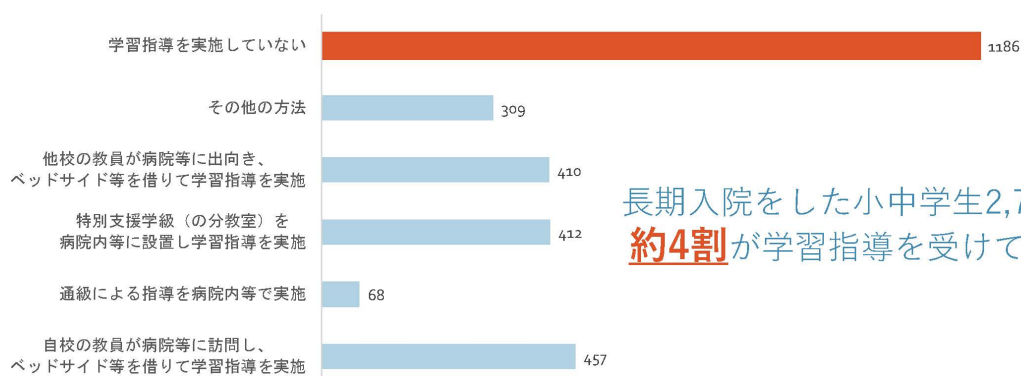


独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所. 「病気療養児の教育について(審議のまとめ)」.
https://www.nise.go.jp/blog/2000/05/b2_ho61214_01.html, (2021/07/13)

3

在籍校の学習指導を受けていない子どもたち

病気やけがにより、延べ30課業日以上入院した小中学生への対応 (人)



長期入院をした小中学生2,769人の
約4割が学習指導を受けていない

文部科学省「長期入院児童生徒に対する教育支援に関する実態調査」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1358301.htm, 2013年

4



病気療養児にもICTの潮流が

現在、教育現場にICTを取り入れ

学習活動の一層の充実を図ろうとする機運が高まっている

例)GIGAスクール構想

同様の流れが、病気療養児への遠隔教育にも

例) 小・中学校等において、病院や自宅等で療養中の病気療養児に対する遠隔教育に係る出席要件を緩和し、学習評価に反映できるように

文部科学省、「小・中学校等における病気療養児に対する同時双方向型授業配信を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について(通知)」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1410027.htm, (2021/07/13)

5

本調査で明らかにすること

長期入院をした小中学生の
約4割が学習指導を受けていない

県内における在籍校からの支援を
受けられていない児童生徒の有無を確認する

文部科学省が転学等にかかる手続き
の簡素化・入院中の病気療養児の交
流及び共同学習の充実を求めている

県内の入院児童生徒への学習支援の現状を
手続き・交流及び共同学習の観点で整理する

病弱教育を行う学校でのICT活用に
関して、教育現場における全国的な
ニーズ調査が不足している

県内の教育現場において、
どのようなニーズや課題があるのかを探る

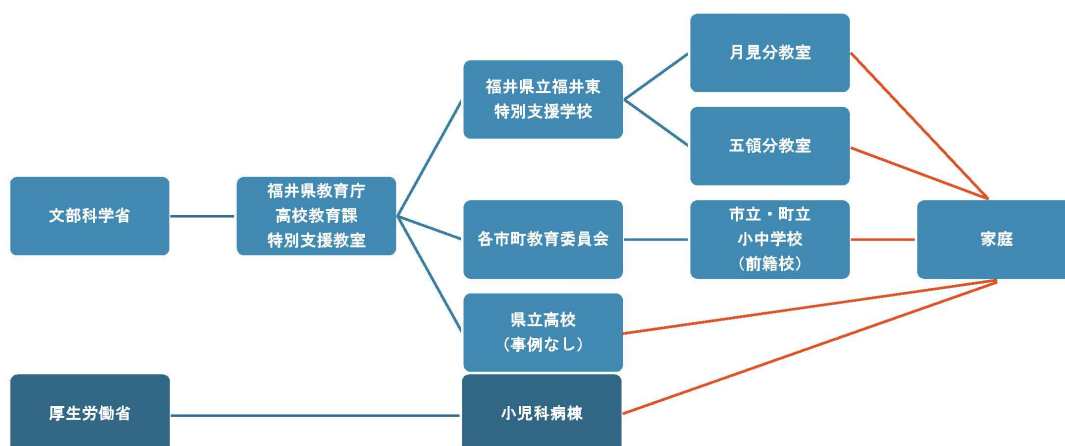
6

調査の実施概要

	調査①	調査②	調査③	調査④
依頼相手	福井県教育庁高校教育課 特別支援教育室	県教育庁	県教育庁	福井市教育委員会事務局 学校教育課
形式	インタビュー	紙面	紙面	紙面
回答者	Aさま	Aさま	Aさま	Bさま（GIGAスクール構想関係） Cさま（入院児童生徒関係）
依頼日	2021年9月29日	2021年11月25日	2021年12月17日	2021年11月25日
回答日	2021年11月11日	2021年12月16日	2021年12月21日	2021年12月23日

7

関係機関の連携状況



8



県内の長期入院児童生徒に支援漏れなし



9

前籍校と転籍校間の交流事例



↑人形型ロボット「OriHime」

- iPadを介した授業交流
- OriHimeを活用した授業参加

※OriHime

ロボットの目を通して学校の様子が病院のパソコンに映し出される。ロボットは病院から遠隔操作され、手や頭を動かすことができる。

福井市河合小学校「学校だより かわい9月号②」2020年、
http://www.fukui-city.ed.jp/kawai-e/02_SNews/tayori/R02/gakkotayori09_02.pdf、(2022/1/7)

10

教員らが感じているICT活用への期待

学習面への期待

学習の遅れへの負担軽減

遠隔からの授業への参加・意思表示

教科書の学習から離れ、社会に対する
興味・関心を広げるような学びを深める

人間関係維持への期待

前籍校とのリアルタイム交流

前籍校とのつながりを保ち、
再度転入した際の負担を軽減する

11

ICTを導入する上での課題

入院児童生徒

①通信環境の整備

⑤児童生徒本人が
希望しない場合
に不向き

通常学級

③教師側の授業の
進めにくさ

④児童生徒側の
集中力の途切れ、
疲労感の大きさ

②情報漏洩

12





各課題に対する展望

通信環境の整備

- 公共施設での接続
- オフラインでもできる課題設定
- モバイルルーターの無料貸出

情報漏洩への懸念

- 遠隔授業中の写真や動画撮影、音声録音にルール設定
- 配慮すべき事項を児童生徒と共有
- ✓ 保護者も共に認識を改めるよう取り組みを進める

13

今後の課題

- 対応策の実現可能性、有効度の調査
- 児童生徒の声を直接把握する
- 入院中の学習環境の観点から解決策を検討

14

林業課題解決のための 3D地形モデル活用法の検討

～空中写真デジタルアーカイブの利用を視野に～

福井大学 国際地域学部
国際地域学科 蓑葉 望

研究背景

①適切な森林管理の必要性

自然災害の増加
平成30年豪雨（西日本豪雨）
令和2年豪雨（熊本豪雨）

⇒森林機能（防災機能など）が重要になる

全183箇所中94%が
林業施業起因の
土砂災害

表1 令和2年豪雨 球磨村土砂災害の原因別集計

林業施業起因の 崩壊	皆伐地の斜面崩壊	83 箇所	45%
	皆伐・間伐の作業道起因の崩落	83 箇所	45%
	林道・公道起因の崩壊	6 箇所	3%
上記以外の崩壊	人工林・広葉樹林の自然崩壊	11 箇所	6%

注) 自伐林業推進協会(資料1)より

研究背景

②境界不明確問題



境界が不明確なことを理由に
 施業する権利の無い
 業者による勝手な伐採！

図1. 盗伐後放置され土剥き出しの山
 (宮崎県南部国富町)

注) Wedge REPORT (資料2) より

表2 地籍調査の現状 (福井県2019年現在)

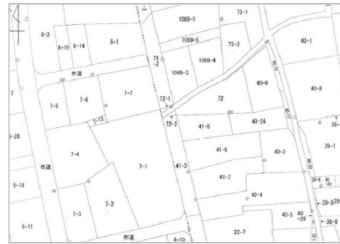
区分	場所	福井県	全国平均
宅地		24.6%	43%
農地など		67.5%	74%
林地		0.3%	45%
全域		13.5%	52%

注) 福井県地籍実施状況 (資料3) より筆者作成

境界とは

2種類 (地籍境界、施業境界)

- ・ 地籍境界 (国土調査法で規定)
 ⇒ 図2、3 (表2 現状)
- ・ 施業界 (所有者の了解)
 ⇒ 資料に残っていない



注) 山形地方務局作成資料 (資料4) より

図2 地籍図の例



注) 山形地方務局作成資料 (資料4) より

図3 公図の例

研究背景

③福井大学地理学教室所蔵資料

地理学教室には、地図・空中写真などの資料が存在。
 資料のスキャンデータも併せて保管している。

→ 新たな活用法を模索



注) 筆者撮影

図4. 福井大学地理学教室所蔵の資料

表3. 福井大学地理学教室所蔵資料 (一部)

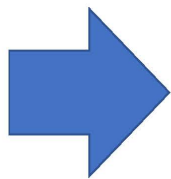
作成年	種類	コース名称	主な撮影場所	所蔵枚数 撮影枚数	焦点距離	撮影縮尺	作成者
1946	空中写真	M283-A-11	福井、加賀	59/218	154.200mm	1/11860	米軍
1948	空中写真	R68-1	福井、丸岡	110/110	152.400mm	1/6959	米軍
1971	空中写真	CB7111Y	福井県丹南	168/168	152.470mm	1/40000	国土地理院

注) 筆者作成



研究目的

- ① 森林管理の必要性
- ② 境界不明確問題
- ③ デジタルアーカイブ活用法模索



デジタルアーカイブ資料を活用し
森林管理の基礎となる
境界画定作業につなげよう！

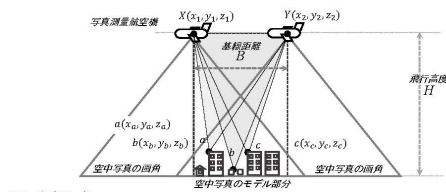
空中写真をどう活用？

空中写真とは

地形図などを作成するために撮影
写真と写真が約60%重なるように撮影
⇒地形の凹凸がわかる

具体的な活用はどのように

写真測量を用いて空中写真を3D化。
技術協力：測量の専門家 長谷川博幸氏



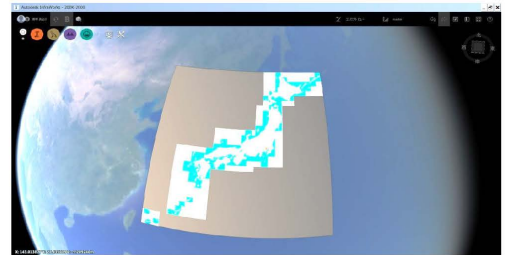
注) 筆者作成

図6. 写真測量のイメージ



注) 1962年国土地理院撮影空中写真より

図5. 空中写真の例（福井城上空）



注) 長谷川氏作成

図7. CAD地球儀

研究対象

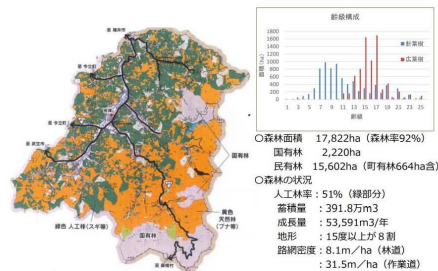
福井の中でも、

- ① 森林が多い（森林率92%）
- ② 面積があまり広くない
- ③ 林業に力を入れている

木望の森100年プロジェクト

- ・バイオマス発電
(カーボンニュートラル)
- ・ツリーピクニックアドベンチャー
- ・ウッドラボ

池田町で実際に3D地形モデルを作成し
実用性の検証



注) 池田町作成 (資料5) より

図8. 池田町の森林



注) 池田町作成 (資料6) より

図9. 木望の森100年プロジェクト

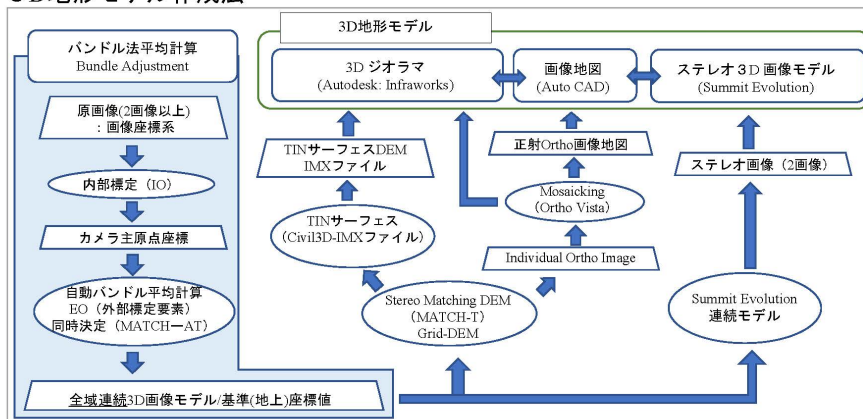
実際の作成方法

作成に使用した資料

1971年 国土地理院撮影 空中写真 (4万分の1)

2000年 国土地理院作成 数値地図 (2万5千分の1)

3D地形モデル作成法



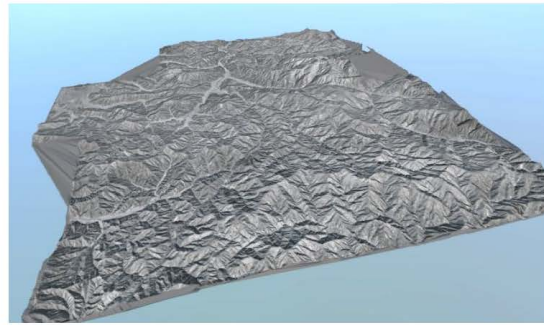
注) 筆者作成

図10. 3D地形モデル作成概念図



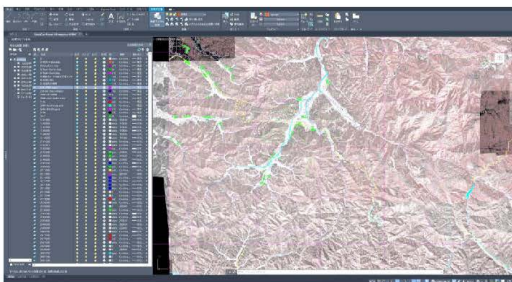
作成した成果品

- ① 3Dジオラマ
- ② 画像地図
- ③ 3D画像モデル



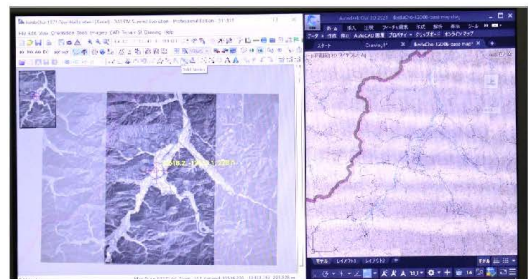
注) 長谷川氏作成データより筆者作成

図11 作成した3Dジオラマ



注) 長谷川氏作成データより筆者作成

図12 作成したAutoCAD画像地図

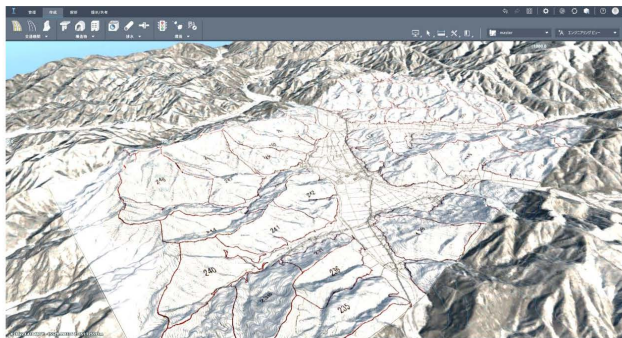


注) 長谷川氏撮影

図13 作成したステレオ3D画像モデルとAutoCAD画像地図

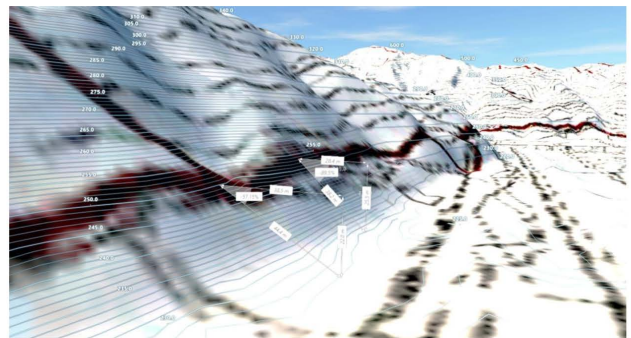
成果物の検証

- ①ステレオ3D画像モデルと
AutoCAD画像地図を用いた森林境界画定



注) 長谷川氏作成データより筆者作成

図14 3Dジオラマに重ねた
森林境界 (林班図)



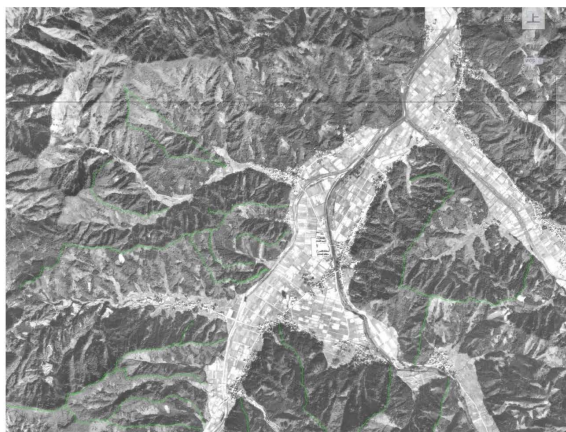
注) 長谷川氏作成データより筆者作成

図15 森林境界 (林班図) のズレ

⇒現状の森林境界約30mもズレている

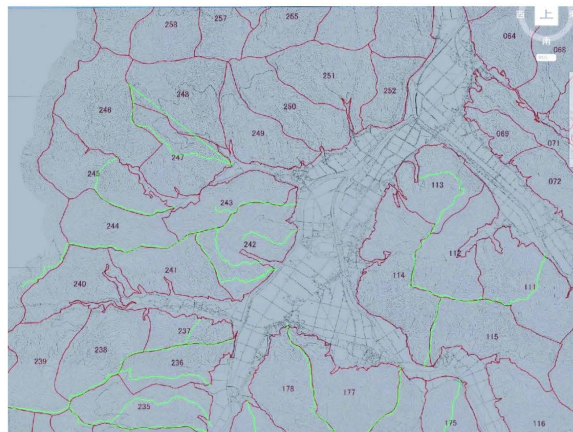
成果物の検証

①ステレオ3D画像モデルと AutoCAD画像地図を用いた森林境界画定



注) 長谷川氏作成データより筆者作成

図16 3D画像モデル内での境界画定

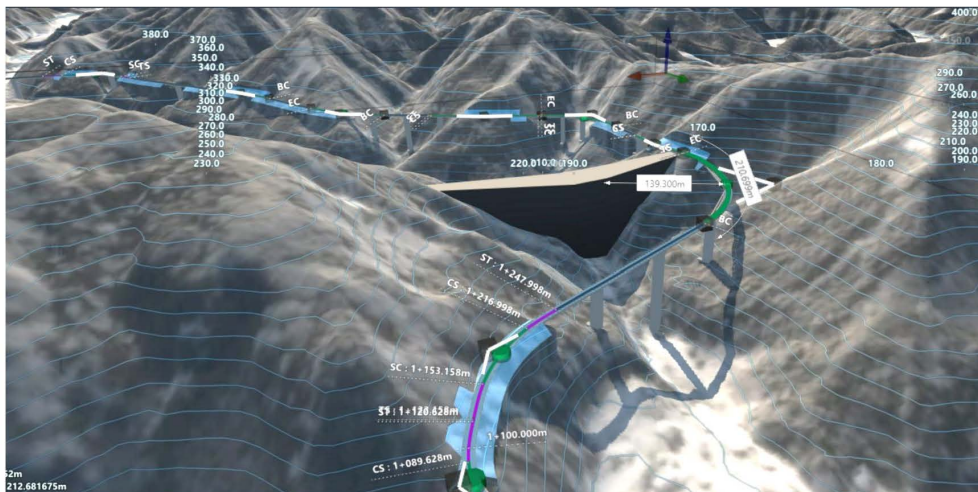


注) 長谷川氏作成データより筆者作成

図17 林班図と3D画像モデル内での境界

成果物の検証

②3Dジオラマ上での道路設計



注) 長谷川氏作成データより筆者作成

図18 3Dジオラマ上での道路設計 (足羽川ダム建設地付近)



池田町での評価

応用可能な場面

- 森林の施業境界
→ 作業の効率化◎
- 5条森林ではない森林の調査

課題

- 精度（地籍測量）
DGPS → GNSS で精度向上◎
- 他の年代の3D地形モデル図
- 実証面

表4 精度関連の一覧表

観測方法	地上精度
資料スキャン精度（2400dpi）	40cm
DGPS（簡易衛星測量）本研究で使用	3～5m
GNSS（衛星測量）	2～3cm
地籍測量に要求される精度 <small>注）国土調査法（資料6）より</small>	100cm

注）筆者作成

まとめ

研究目的

林業課題の解決のために3D地形モデルを作成

課題

精度面、実証面

今後の展望

より精度の高いGNSSを用いる
実証試験を行う

⇒スマート林業などへの応用も考えられる

使用資料

- 資料1 自伐型林業推進協会 ZIBATSUチャンネル （閲覧日：2022年1月29日）
【第95回】土砂崩壊の原因が林業!?崩壊した球磨川流域183箇所を徹底検証
- 資料2 Wedge REPORT 横行する盗伐、崩れる山林 林業県・宮崎の闇 （閲覧日：2022年2月7日）
<https://wedge.ismedia.jp/articles/-/16547>
- 資料3 農林水産省 2005年農林業センサス （閲覧日：2022年1月29日）
第7巻 農山村地域調査及び農村集落調査報告書
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000001203280&fileKind=0>
- 資料4 池田町 木望の森づくり課（2020）『木望の森100年プロジェクトマスタープラン』
https://www.town.ikedate.fukui.jp/gyousei/gyousei/1929/p002547_d/fil/kibou.pdf （閲覧日：2022年1月29日）
- 資料5 池田町 木望の森100年プロジェクトホームページ （閲覧日：2022年1月29日）
<https://ikedate-kibou100.jp/>



【所属・氏名】 福井県立大学 生物資源学部 生物資源学科 苅谷 竜弘

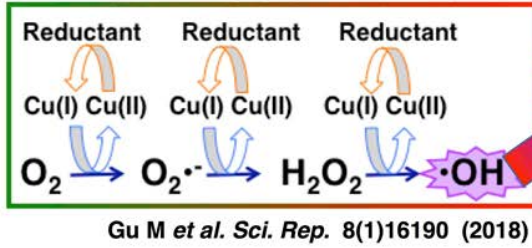
【実績・業績】 神経疾患予防に向けた農産物由来化合物・抽出物の試験管内における有効性の評価

【実績・業績内容】

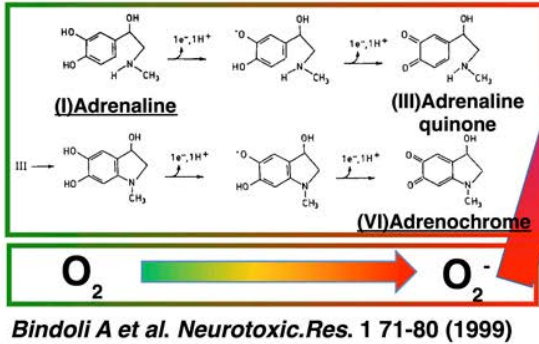
令和3年度 ふくい地域創生アワード

神経疾患予防に向けた農産物由来化合物・抽出物の試験管内における有効性の評価

遷移金属イオン依存性ROS発生系



カテコールアミン依存性ROS発生系



背景：神経疾患の例と主な症状

アルツハイマー型認知症 (ALZ)

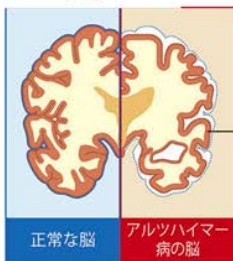
急激な脳の神経細胞の減少と、脳（海馬）の萎縮に伴い、記憶障害や判断力の低下、見当識障害などの中心症状と、妄想、幻覚、不安、徘徊などの周辺症状が起こる（エーザイHP）。

ALZの原因物質？

アミロイドβ (AMB)



<https://www.rcsb.org/structure/1iyt>



大脳皮質に出現する病理変化



アミロイドβ (老人型)



タウタンパク (神経原線維変化)

神経細胞の死滅により脳が萎縮している。

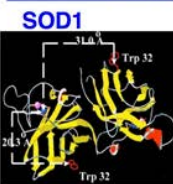
SHIMADZU Excellence in Science

島津製作所HP

筋萎縮性側索硬化(ALS)

運動ニューロンの変性により、脳から筋肉への指令が伝わらなくなる難病。その原因、発症のしくみは完全には解明されておらず、根治療法は未だにない。

ALSの原因物質？



Zhang H et al. *J. Biol. Chem.*, 278, 24078-89 (2003)

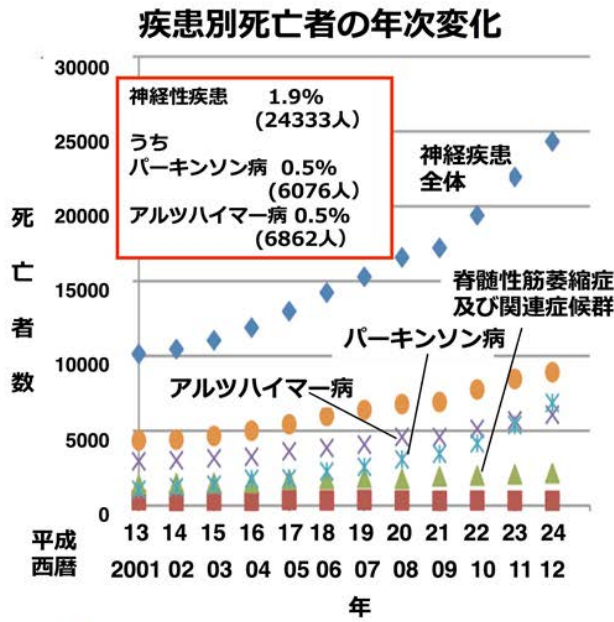
Komatsu K et al. *Neuroreport.* 29:25-29. (2019)

ALS患者

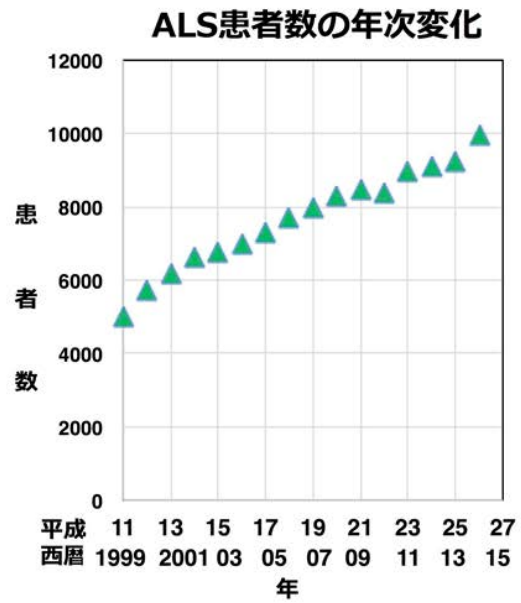


実験医学24(6) (2006) 阿部康二

背景：神経疾患による死亡者、患者数の年次変化



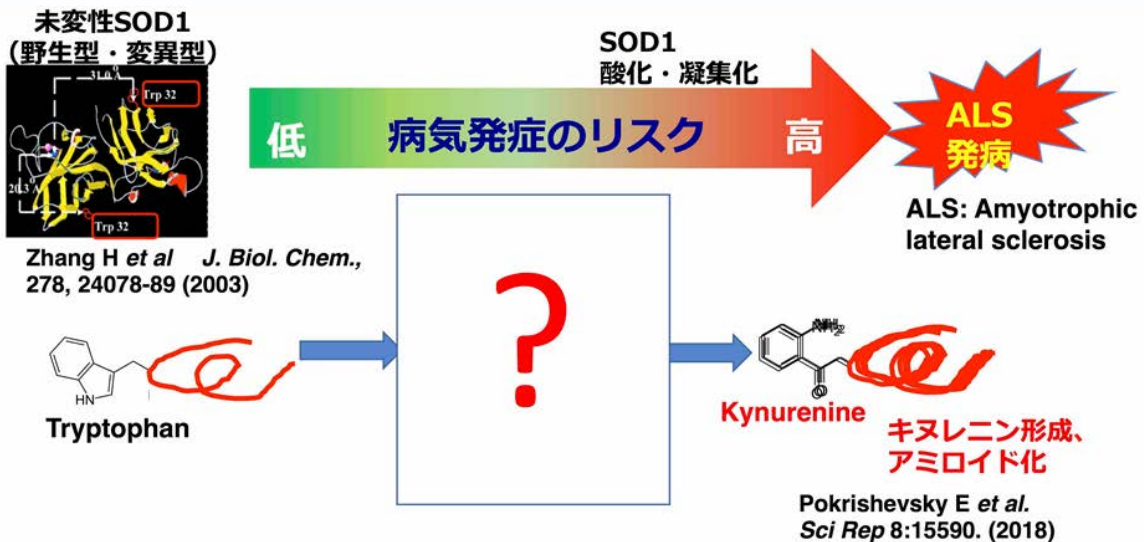
厚生労働省「人口動態統計月報 (平成13-24年)」を改変。



難病情報センター (2021 12月現在)
<https://www.nanbyou.or.jp/entry/1384>

神経疾患の患者数、死亡者ともに、過去約20年間でおよそ倍増した

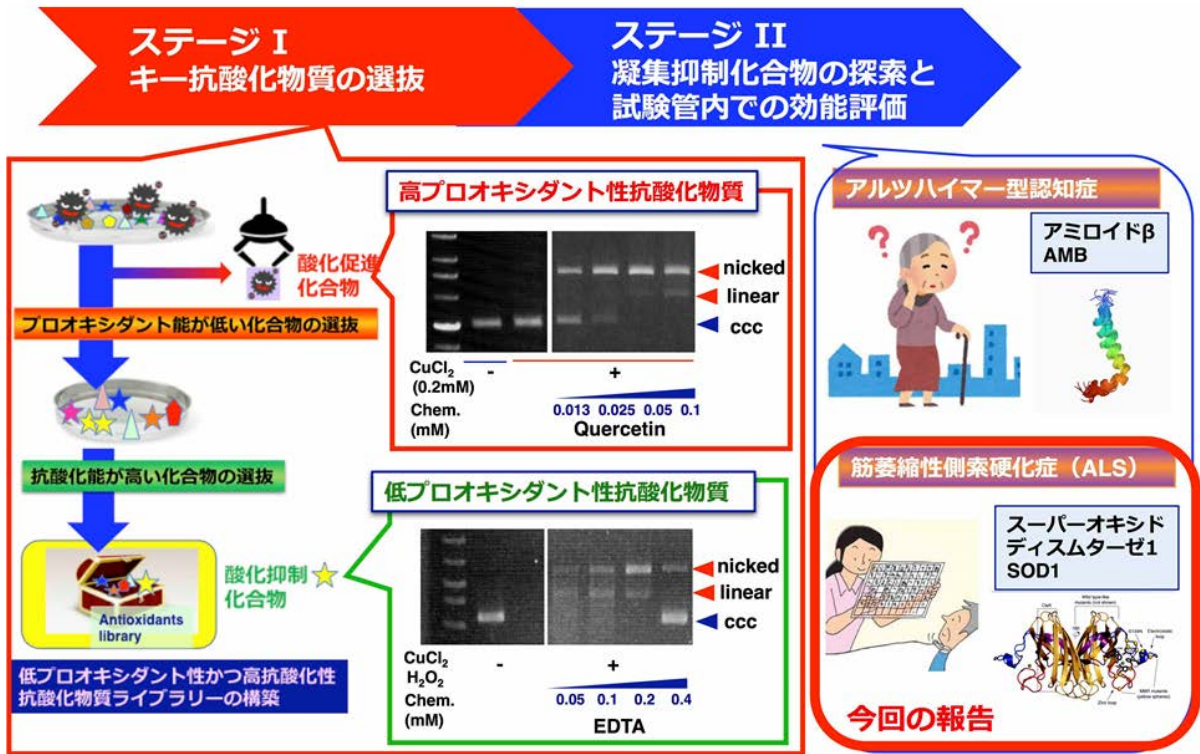
背景：SOD1の毒性化はどのように起こる？



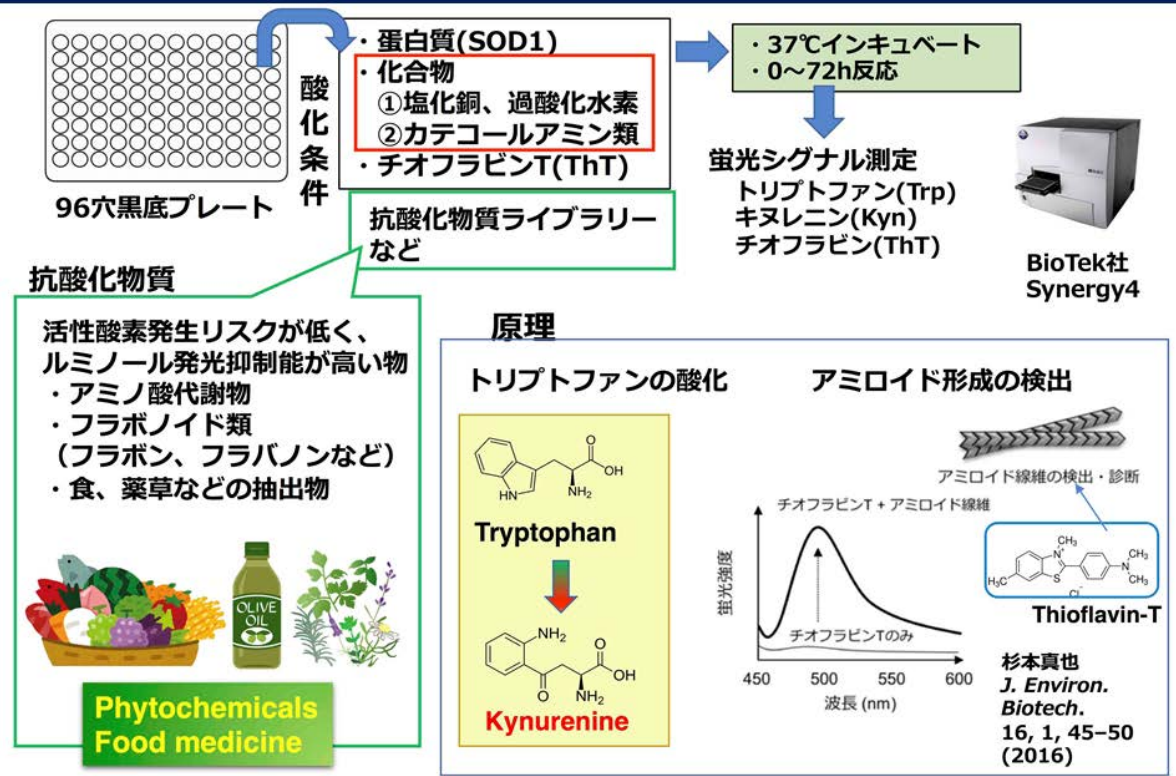
作業仮説「酸化かつアミロイド化したSOD1がALS発症を引き起こす」

SOD1の「Trp32酸化」「アミロイド化」の双方が起こる条件に関する報告例はない。

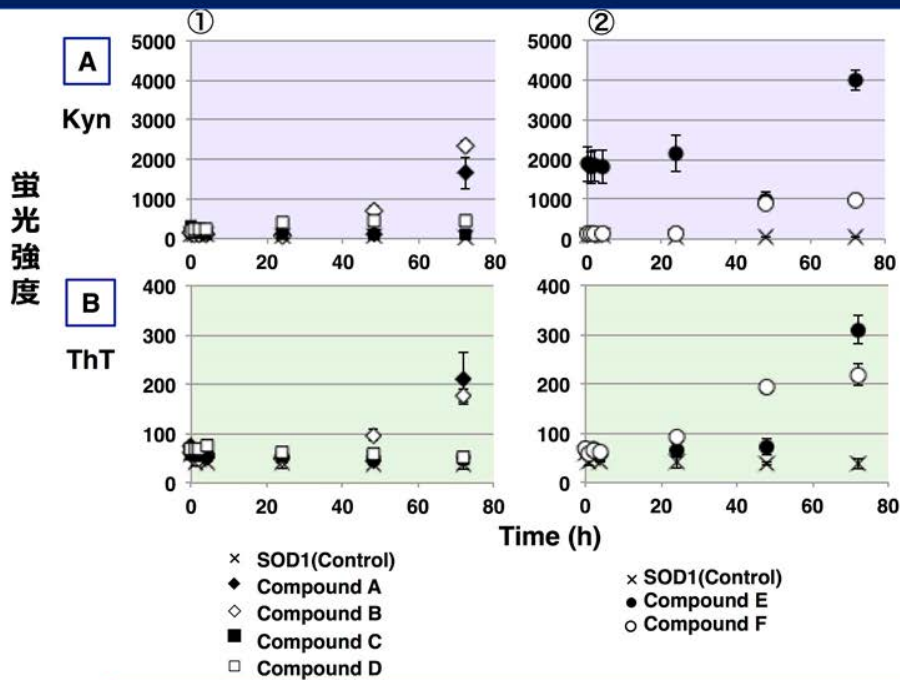
タンパク質の酸化促進化合物、および抑制化合物の探索



方法：SOD1の酸化・アミロイド化を促進する条件、その抑制化合物・食品由来抽出物の探索

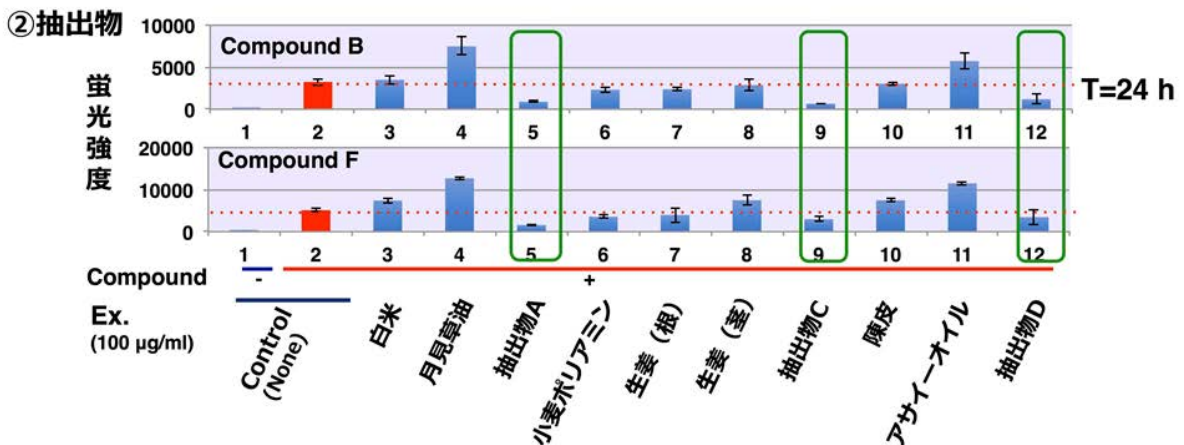
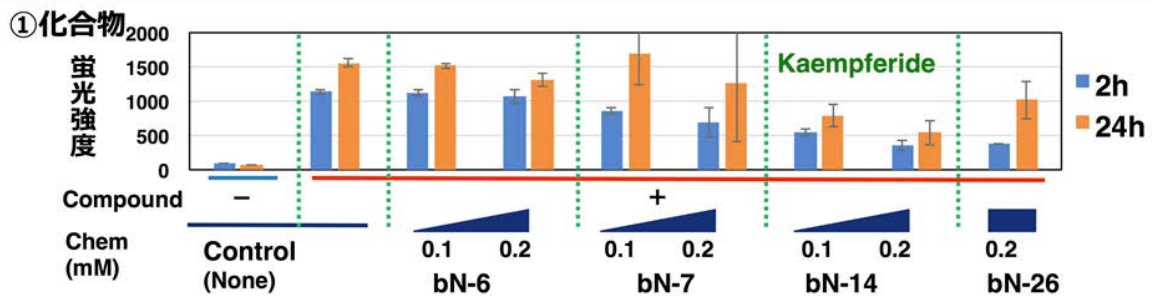


結果① SOD1酸化・アミロイド化に伴うシグナルを増加させる化合物の探索

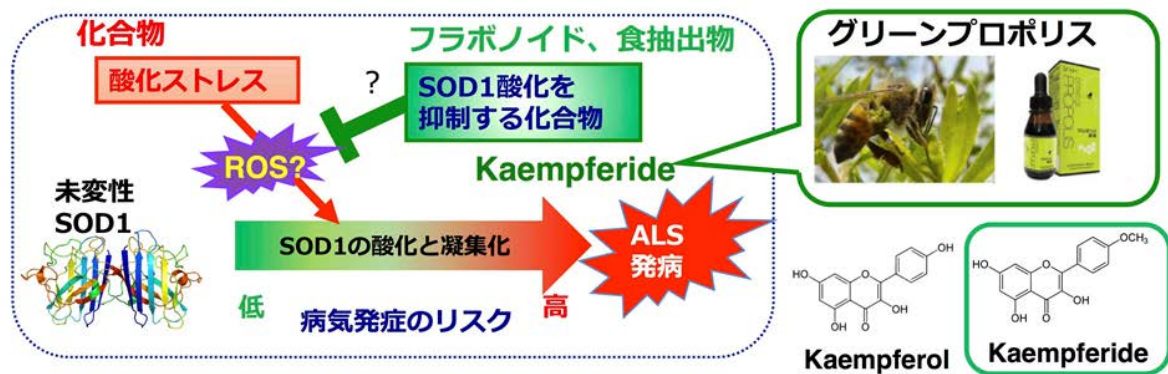


SOD1の酸化あるいはアミロイド形成に伴う蛍光シグナルを増加させる化合物を見出した。

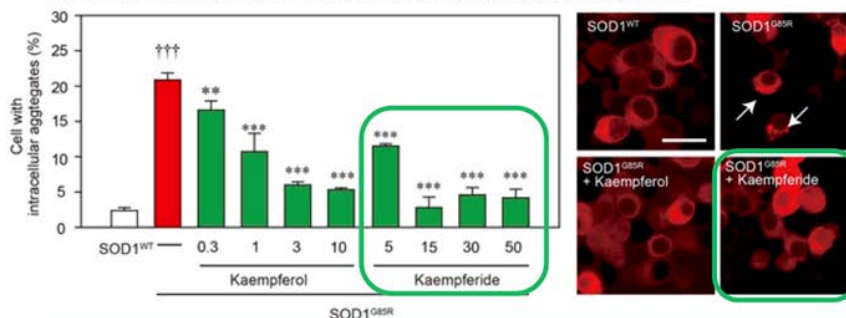
結果② SOD1酸化（キヌレニン形成）を抑制する化合物あるいは抽出物の探索



考察：SOD1酸化を抑制する化合物



SOD1変異体発現N2a細胞における凝集形成抑制効果



SOD1の酸化、アミロイド形成に伴う蛍光シグナルを抑制した化合物は、ALSモデル細胞における毒性も抑制した。→ ALS発症抑制効果を持つ化合物探索への応用の可能性

まとめ

①筋萎縮性側索硬化症(ALS)の一原因物質と考えられるSOD1において、トリプトファン残基(Trp)の酸化型であるキヌレニン(Kyn)の蛍光シグナルおよび、アミロイド構造の形成を示す蛍光シグナルを経時的に増加させる化合物を見出した。

②①において、SOD1のKyn蛍光シグナルの増加を抑制する化合物あるいは食品由来抽出物を見いだすことができた。

以上の知見は、SOD1酸化を起因とするALSの発症を抑制する生物資源(食由来化合物・抽出物)を探索する上で有望と期待されるほか、今後、哺乳類由来細胞や動物実験での検証を経て、将来的には、有効な治療法が確立されていない神経疾患の予防にも寄与すると考えられる。



【所属・氏名】 福井県立大学 海洋生物資源学部 海洋生物資源学科 河端 りえ子

【実績・業績】 福井県伝統的水産加工品「若狭かれい」の製造技術の科学的検証

【実績・業績内容】

若狭かれい製造における 塩漬と水洗いに秘める技

食品工学研究室
河端 りえ子

背景と目的

みけつくに
御食国



食塩

「食塩利用の技」が
秘められている？



若狭かれいの製造に秘める技を紐解く

“若狭かれい”製造方法

内臓・鰓・鱗
除去



撒塩（塩漬）



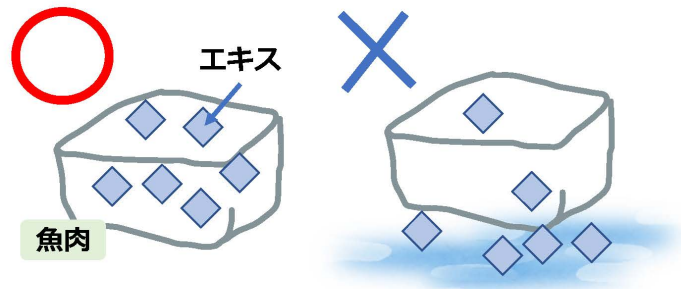
水洗い



乾燥
（一夜干し）

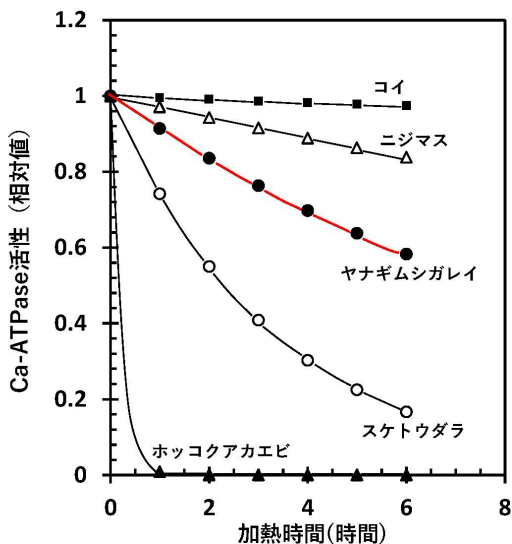


若狭かれいの上品な味は
素となるエキスが魚肉に保持され成立



魚肉の保水性を担う
筋原繊維タンパク質（Mf）の性質を検討

ヤナギムシガレイMfの温度安定性



温度安定性
 ニジマス
 ↓
 ヤナギムシガレイ
 ↓
 スケトウダラ

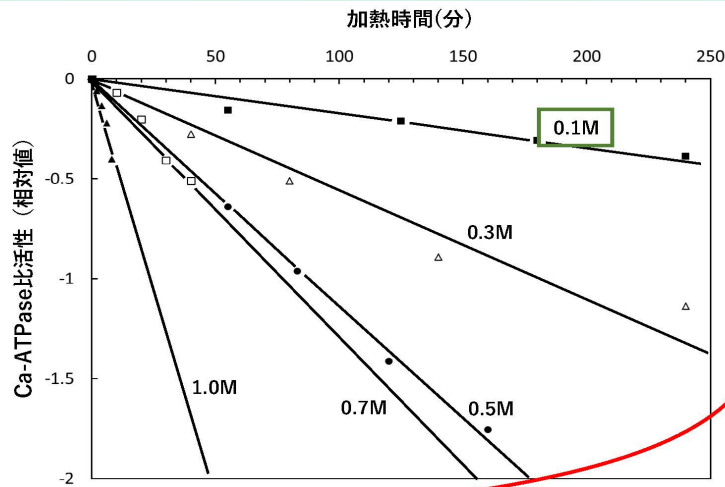
高い（不安定化しにくい）
 ↓
 低い（不安定化しやすい）

結果

ミオシンは不安定化しやすく、変性しやすい



ミオシンと食塩の反応性

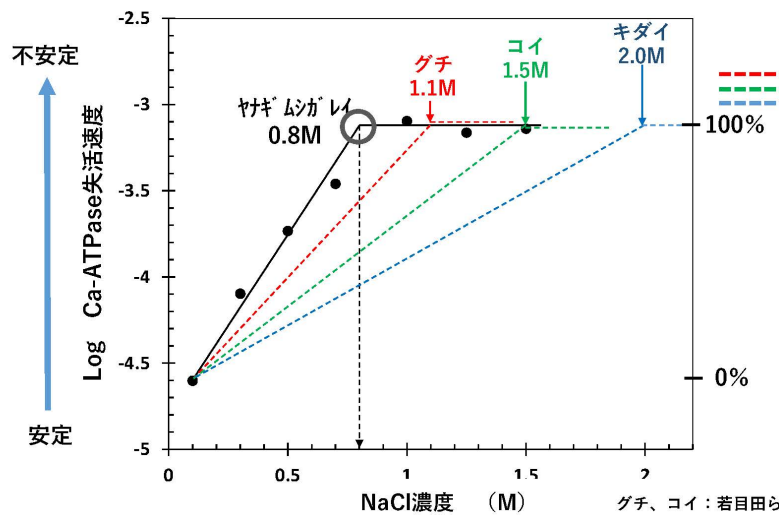


変性速度の上昇

結果

カレイの魚肉中のミオシンは食塩の作用によって、一層変性しやすくなる

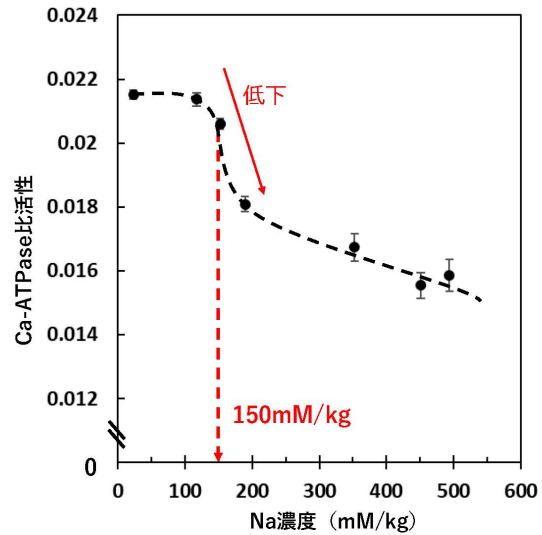
ミオシンと食塩の反応性



結果

他魚種と比較しても、食塩による不安定化を非常に受けやすい

魚肉片のミオシン変性が起こるNa濃度

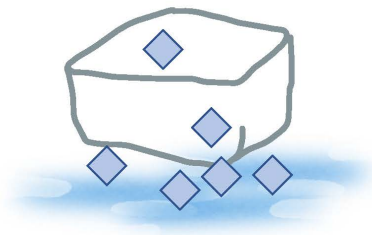


結果

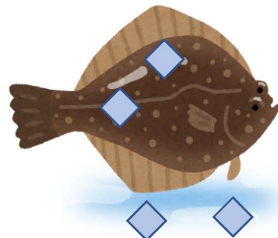
少量の食塩の浸透でも変性しやすくなることが確かめられた

ヤナギムシガレイMfは食塩との反応性が高い

保水性の低下



味覚・品質の低下



こんな変性しやすい魚をどう扱っている？

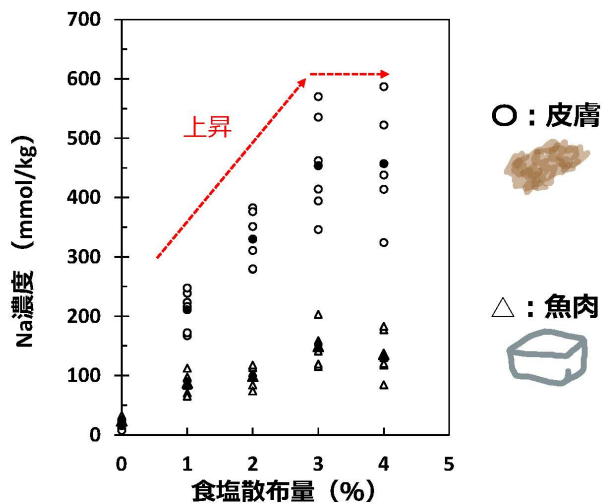


塩漬に伴うナトリウム (Na) の皮膚と魚肉への浸透濃度を検討





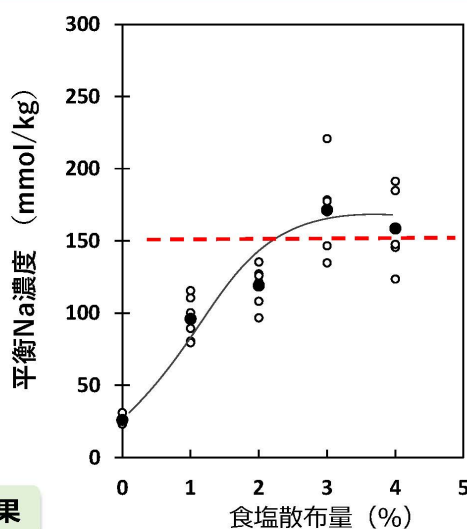
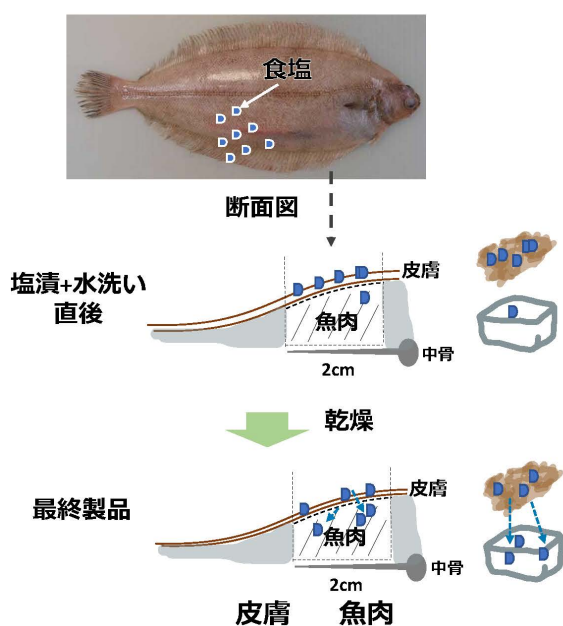
塩漬に伴う皮膚と魚肉へのNaの浸透濃度の変化



結果

- Na濃度は食塩散布量の増加に伴い増加
- 増加は3%で最大となった

塩漬に伴う魚肉中のNa濃度の変化



結果

- 魚肉中のミオシン変性を引き起こす食塩濃度を大きく超えない

まとめ

ヤナギムシガレイMf中のミオシンは
食塩との反応によって極めて変性しやすい



ミオシン変性を引き起こすことなく 魚肉の保水性を食塩の作用によって高める技



若狭かれい製造の塩漬と水洗いに
秘められている！



【所属・氏名】 福井県立大学 海洋生物資源学部 海洋生物資源学科 岸野 晃大

【実績・業績】 ヤマメの発眼卵放流における適正な河川環境の検討

【実績・業績内容】

福井県におけるヤマメの 生息環境

海洋生物工学研究室
岸野 晃大

ヤマメ (*Oncorhynchus masou*) とは…



陸生昆虫



水生昆虫



- ・サケ科の溪流魚
- ・同種に降海型のサクラマス

釣り人に人気 → 福井県でも稚魚放流事業

背景と目的

発眼卵放流

近年注目されている新しい放流事業

生残率

野生個体 > 放流個体

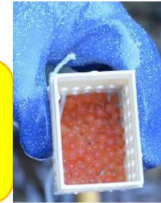
釣り人の人気

野生個体 > 放流個体

発眼卵放流個体は、野生個体に近い姿になる

福井県で発眼卵放流を普及するために

ヤマメの生残に重要な河川物理環境との関係性を明らかにする



調査地点

小松谷

$6.23 \pm 1.97\text{m}$
 $3.07 \pm 1.56\%$



野鹿の滝

$4.48 \pm 1.07\text{m}$
 $7.01 \pm 0.97\%$



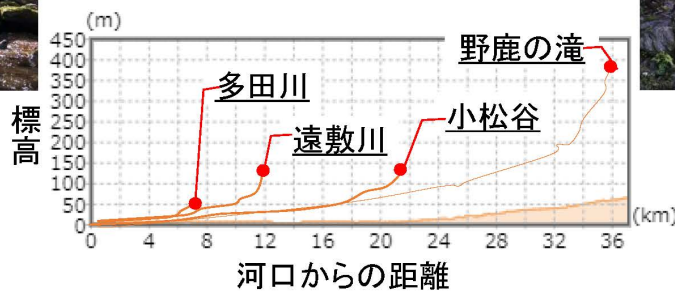
多田川

$2.34 \pm 1.51\text{m}$
 $5.94 \pm 1.24\%$



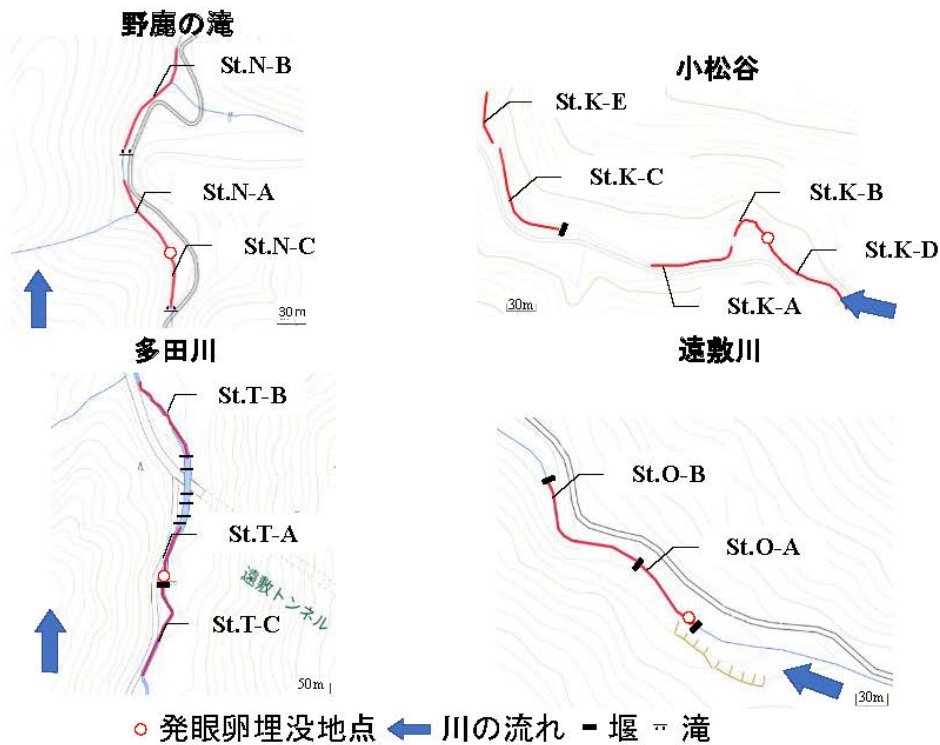
遠敷川

$2.63 \pm 0.57\text{m}$
 $7.88 \pm 0.13\%$



調査地点
川幅(m)
河床勾配(%)

各調査地点の発眼卵埋没地点と採捕調査地点



調査方法

ヤマメの採捕調査

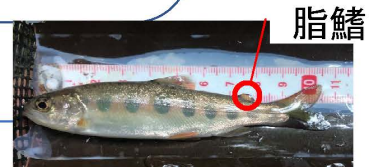
- 2021年 5月・7~8月・9月・11月
- ・1000個の発眼卵を各調査地点に放流 (2020年12月)
 - ・電気ショッカーを用い採捕調査
 - ・採捕尾数と調査面積から生息密度 (尾/m²)を算出

標識再捕獲法

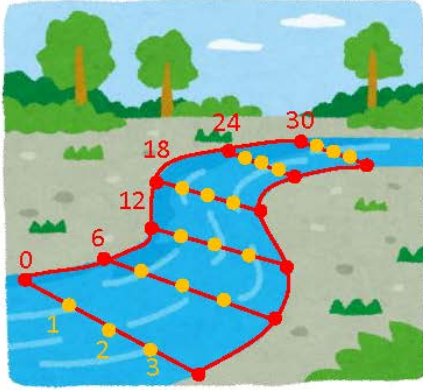
$$\text{全個体数} = M \times C / R$$

M 標識個体の数・C 採捕された個体の数

R 採捕された個体のうち標識個体の数



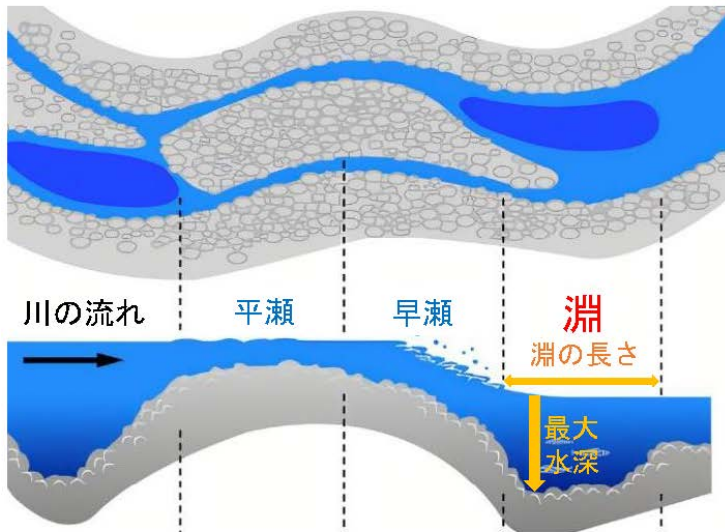
河川環境調査



各支流に30mの区画で測定
6m毎にトランセクトラインをとる

- ・川幅 各トランセクト毎に測定
 - ・水深
 - ・流速
 - ・底質
- 各トランセクトを4等分する
右・中央・左で測定
- ・植生 調査区画の右岸・左岸の
水際植物の範囲を測定

淵の計測



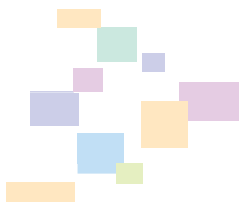
淵の計測の様子



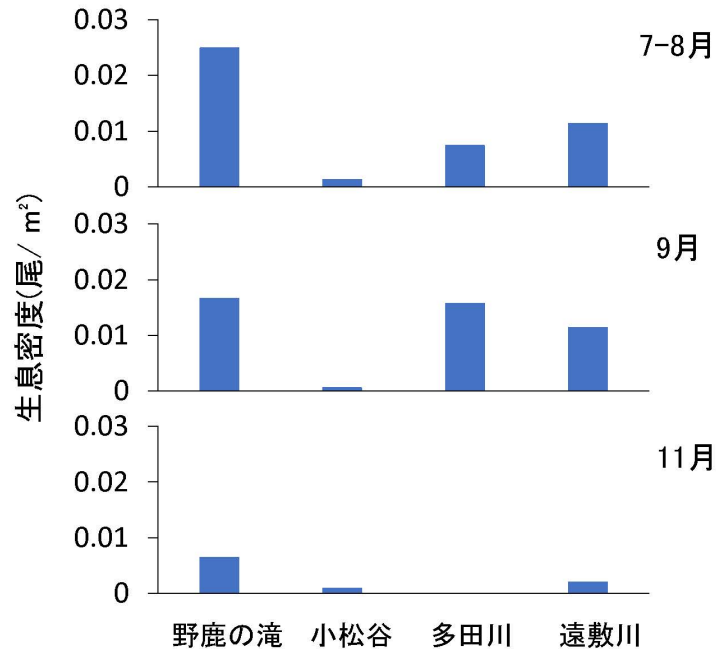
国土交通省 国土技術政策総合研究所
河川研究部 水害研究室 より

各調査地点の淵の長さ・最大水深を測定(11月)





ヤマメの採捕結果



野鹿の滝の生息密度が高かった

淵の計測結果

	野鹿の滝		小松谷	多田川		遠敷川	
	St. N-A	N-B	K-C	T-A	T-B	O-A	O-B
調査範囲 (m)	67	110	116	73	120	70	118
淵の合計距離(m)	47.2	30.3	27.7	23.3	17.1	4.1	14
淵の割合 (%)	70	28	24	32	14	6	12

野鹿の滝のN-Aで淵の割合が高くなった

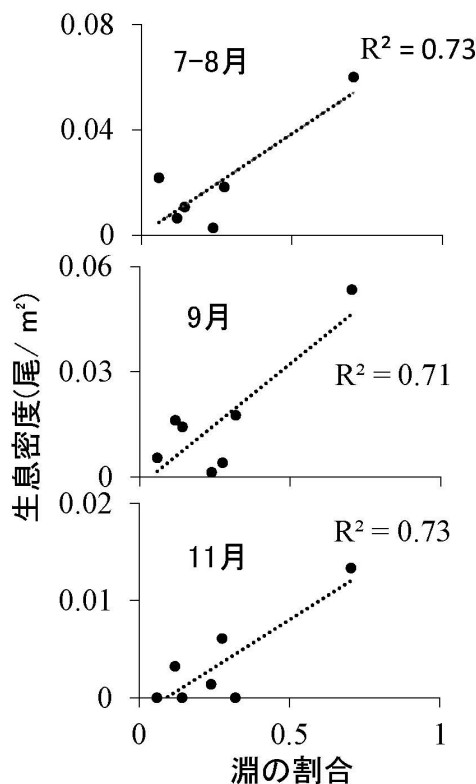


図 ヤマメの生息密度と淵の割合との関係

ヤマメの生息密度
と物理環境



調査範囲に占める
淵の割合と
正の相関がみられた



淵の割合が
ヤマメの生息に
重要

まとめ

ヤマメの発眼卵放流は

淵の多い場所にすることが良い



今後

ヤマメの生息密度と
他の物理環境との相関が不明瞭



明らかにしていく必要がある



切磋琢磨して進化・深化する

「ふくい地域創生士®」認定者・「ふくい地域創生アワード」表彰者

FAAふくいアカデミックアライアンスでは、基本理念に基づき4つの部会を設けて活動をしています。この「ふくい地域創生士®」「ふくい地域創生アワード」の活動を担っているのは主に教養共同化部会です。

この制度を発足させるに当たっては、次のような経緯・背景がありました。

地域志向科目、課題探求型の取組を推進するためには学生たちに分かりやすいインセンティブ、モチベーションになるものが必須ということで、就職等にも活用できる認定制度「ふくい地域創生士®」を、平成29年度に制度化しました。さらに平成30年度には、その中から「顕著な業績を残し、地域の持続的発展に寄与できる人材」として推薦されると、「ふくい地域創生アワード」として表彰される制度を創設しました。

令和3年度には、「ふくい地域創生士®」として福井大学33名、福井県立大学14名、仁愛大学7名の計54名を認定し、さらに「ふくい地域創生アワード」として福井大学2名、福井県立大学3名の計5名を表彰しました。

認定制度を開始してからの5年間で、令和3年度認定者数を含めると「ふくい地域創生士®」315名が認定され、「ふくい地域創生アワード」27名の方が表彰されています。

「ふくい地域創生士®」とは福井というフィールドで学んだということであって、福井に限定した認定制度ではなく、「地域創生士」はいろんな地域それぞれに適応し、通用する人材として育成したいという思いが込められており、地元出身者を地元に残すためだけの取組ではありません。

学生が自分の関わっている「地域」を外から眺めることは、武者修行や短期留学に通じるものです。「地域」の良さを認識した上で、自分とは異なる物の見方や考え方をする人がいるという、多様性を意識することでグローバルな視点を育て、改めて「地域」の価値を再認識できるものと考えています。

これまでに認定を受けた学生からは、「この制度の魅力は就活に有利にアピールできること以外に、自分の価値観が変わることにあると思う。授業やフィールドワーク、インターンシップを通して、たくさんの課題に直面する過程で、物事へのアプローチや他者との関係のなかで自分の考え方を見つめ直すことでもあると思う。このような魅力をぜひ後輩に伝えたい。」という声がありました。認定制度が始まって5年目という節目を迎え今後益々、地域産業界等のご理解・応援を得て、地域創生士に認定された学生が交流・融合し、切磋琢磨することで、新たな化学変化が生まれ、地域創生士の進化・深化に繋がることを期待します。

こうした思いが、これから挑戦する学生たちに広がり、引き継がれていくことを心から願っています。

■ FAAふくいアカデミックアライアンスの取組についてはこちらをご参照下さい。

→<http://www.allfukui-cocp.jp/faa/>



令和三年度表彰者

ふくい地域創生アワード

実績・業績集

